

第10章 多文化共生とボランティアリズム

引用・参考文献

イリイチ, I. 著 (1985) 尾崎浩訳, オルターナティヴズ—制度変革の提唱, 新評論

イリイチ, I. 著 (2015) 渡辺京二・渡辺梨佐訳, コンヴィヴィアリティのための道具, ちくま学芸文庫

エンゲストローム, Y. 著 (1999) 山住勝広他, 訳拡張による学習—活動理論からのアプローチ, 新曜社

フレイレ, P. 著 (1979) 小沢有作他訳, 被抑圧者の教育学, 亜紀書房

フレイレ, P. 著 (2018) 三砂ちづる訳, 被抑圧者の教育学 50周年記念版, 亜紀書房

レイヴ, J., ウェンガー, E. 著 (2003) 佐伯胖訳, 状況に埋め込まれた学習: 正統的周辺参加, 産業図書

ローティ, R. 著 (2000) 斎藤純一他訳, 偶然性・アイロニー・連帯: リベラル・ユートピアの可能性, 岩波書店

朝倉征夫 (1995) 多文化・多民族共生社会と社会教育の課題, 多文化・民族共生社会と生涯学習, 日本社会教育学会編, 東洋館出版社, p.25-39

朝倉美江 (2017) 多文化共生地域福祉への展望, 多文化共生コミュニティと日系ブラジル人, 高管出版

朝倉美江 (2022) 多文化共生と非営利・協同組織—教育・労働の視点から—, 日本福祉教育・ボランティア学習学会研究紀要, Vol. 39, p. 26-40

大石剛史 (2022) 多文化共生のための福祉教育・ボランティア学習のあり方の批判的検討—交流・創成型多文化共生概念, 越境性のボランティアリズム, ケアリングコミュニティの理論を用いて—, 日本福祉教育・ボランティア学習学会研究紀要, Vol. 39, p. 11-25

大橋謙策 (2022) 地域福祉とは何か—哲学・理念・システムとコミュニティソーシャルワーク—, 中央法規

岡本栄一 (1981) ボランティア活動をどうとらえるか, ボランティア=参加する福祉, 大阪ボランティア協会編, ミネルヴァ書房, p. 2-54

香川秀太 (2011) 状況論の拡大: 状況的学習、文脈横断、そして共同体間の「境界」を問う議論へ, 認知科学, 18(4), p. 604-623

川村千鶴子(2009) 移民政策へのアプローチ～ライフサイクルと多文化共生～, 明石書店

小林洋司 (2022) 福祉教育・ボランティア学習における「対峙」の創生～「多文化」共生の実質化を目指して～, 日本福祉教育・ボランティア学習学会研究紀要, Vol. 39, p. 67-81

後藤聡美 (2020) 福祉教育・ボランティア学習実践における〈当事者性の邂逅〉の意義～偶然の出会いが学びを深める契機に注目して～, 日本福祉教育・ボランティア学習学会研究紀要, Vol. 35, p. 95-110

後藤聡美 (2022) 多文化交流におけるコンヴィヴィアルな空間の意味～〈当事者性の邂逅〉に着目して～, 日本福祉教育・ボランティア学習学会研究紀要, Vol. 39, p. 53-66

佐藤陽 (2022) 多文化共生とボランティアズムを実質化するプラットフォーム～親密圏と公共圏を紡ぎ地域で支え合いを可能とする空間づくり～, 日本福祉教育・ボランティア学習学会研究紀要, Vol. 39, p. 97-112

佐藤一子, 増山均 (1995), 子供の文化権と文化的参加—ファンタジー空間の創造—, 第一書林, p. 15

瀬田幸人 (2007), 異文化理解教育で扱うべき文化要素について, 岡山大学教育学部研究集録, Vol. 134, p. 129-139

高杉公人 (2022) 外国人介護通訳者の主体性と文化媒介力に関する研究～多文化共生を促進させる福祉教育・ボランティア学習の発展を目指して～, 日本福祉教育・ボランティア学習学会研究紀要, Vol. 39, p. 82-96

田崎勝也, ギブソン松井佳子, 手塚千鶴子, 灘光洋子 (2010), 特集 巻頭言 文化と媒介性を考える, 多文化関係学, Vol. 7, p. A1-A4.

津田英二 (2005) 知的障害者のエンパワーメント実践における当事者性, 神戸大学発達科学部研究紀要, Vol.13(1), p. 59-70

常葉-布施美穂 (2004) 変容的学習-J. メジローの理論をめぐって, 生涯学習理論を学ぶ人のために, 世界思想社, p. 87-114

仁平典宏 (2011) 「ボランティア」の誕生と終焉, 名古屋大学出版会

原田正樹 (2006) 福祉教育が当事者性を視座にする意味—いのち・私・社会を問うための福祉教育であるために—, 日本福祉教育・ボランティア学習学会年報, Vol. 11, p. 34-55

松尾知明 (2005), 「ホワイトネス研究」と「日本人性」—異文化間研究への新しい視座—, 異文化間教育学会編, 異文化間教育, Vol. 22, アカデミア出版会, p. 15-26

松岡広路 (2006) 福祉教育・ボランティア学習の新機軸—当事者性・エンパワメント—, 日本福祉教育・ボランティア学習学会年報, Vol. 11, p. 12-32

松山毅 (2022) 多文化共生を促進するボランタリズムの意義～「非権力性」「主体性」に着目した voluntarism～, 日本福祉教育・ボランティア学習学会研究紀要, Vol.39, p. 41-52

南川文里 (2021) 未完の多文化主義 アメリカにおける人種, 国家, 多様性, 東京大学出版会

宮島喬 (2021) 多文化共生の社会への条件—日本とヨーロッパ, 移民政策を問い直す, 東京大学出版会

山西優二 (2012) 多文化共生に向けての地域日本語教育のあり様と多文化社会コーディネーターの役割—「文化力」形成の視点から—, シリーズ多言語・多文化協働実践研究, Vol. 15, p. 26-32

山本哲士 (2009) イバン・イリイチ—文明を超える「希望」の思想, 文化科学高等研究院出版局

Coghlan, Alexandra., Gooch, Margaret. (2011) Applying a transformative learning framework to volunteer tourism, Journal of Sustainable Tourism, vol. 19, p. 713-728

Jordens, Ann-Mari. (2012) HOPE, REFUGEES AND THEIR SUPPORTERS IN AUSTRALIA SINCE 1947, Copyright, Ann-Mari Jordens (=2018 アン=マリー・ジョーデンス著, 加藤めぐみ訳, 希望 オーストラリアにきた難民と支援者の語り 多文化国家の難民受け入れと定住の歴史, 明石書店)

Semprini, Andrea. (1997) Le Multiculturalisme, Universitaires de France (=2003 アンドレア・センプリニ著・三浦信孝訳, 多文化主義とは何か, 白水社)

Stern, Hans H.(1992) Issues and Opinions in Language Teaching, Oxford University Press.

Wenger, Etienne. (1998) Communities of Practice: Learning, Meaning, and Identity, Cambridge: Cambridge University Press